

オフィス・住環境など人の居場所を木質化リノベーション

このテーマのキーワード	木質化、環境デザイン、住環境、環境心理、ライフスタイル
関連するSDGs 開発目標	   

研究内容(社会背景・目的、概要、期待される効果)

(社会背景・目的)

戦後、造林された我国のスギやヒノキなどは75年以上を経て伐採期を迎え、有効活用が望まれています。そこで、インテリア空間などを木質化することで居心地の良い持続可能な暮らしの形成を目的とします。

(概要) 設計・施工の事例

間口が狭く奥行の長い執務空間に対して、スギ材の柱・梁による鳥居型の木質フレームを連ねて奥へ導くように挿入しました。木質フレームが間口に対し突っ張る構造で空間に広がりを与え、隣席を緩やかに仕切り、集中と会話をもたらします。応接エリアは角度の変わる格子により、視線をコントロールします。既存空間を傷つけることなく仮設的に設えることで、賃貸物件でもリニューアル可能です。

(期待される効果)

人が長時間過ごす空間を木質化することで、森林資源の有効活用とCO2のストックによる温暖化対策に貢献し、人が心身ともにリラックスして、働き方や暮らし方に良い影響を及ぼすことが期待されます。



鳥居型木質フレームが執務空間に広がりを与える



格子の木質パーテーションが応接エリアの視線をコントロールする

想定される適用分野・用途・業界

- オフィスや住宅の居間、書斎・医療施設・高齢者施設など人が長時間過ごす空間に最適な木質化です。

産業界へのアピールポイント

- 昨今、問われる働き方には空間の設えも関係します。木質化で作業効率の向上やリラックス効果を体感して下さい。

建設学科 戸田 都生男 准教授



このテーマに関するお問合せ ものづくり研究情報センター
E-mail : mric@iot.ac.jp TEL : 048-564-3880